

# 2010年度 事業報告・決算報告

NPO 法人 共存の森ネットワーク

## NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「森の聞き書き甲子園」の活動と、この甲子園に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「森の聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系—地球—」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の活動は「森の聞き書き甲子園」に参加した経験をもつ卒業生、あるいは「共存の森」の活動に参加する学生等、若者たちを中心とした活動へと引き継いでいきたいと思えます。

そのために、現在は当 NPO の活動基盤の強化を図ることが必要ですし、会員の皆様と共に活動全体の将来像をしっかりと考え、共有していかなければなりません。

皆様の引き続きの御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

## 概要

2010年度は、「森の聞き書き甲子園」「海・川の聞き書き甲子園」の取り組みを通じた「青少年育成事業」と、その卒業生等の有志によって行われる「共存の森」の活動を中心とした「森づくり事業」。そして、なりわい創造塾の開講や筑波大学附属坂戸高等学校での聞き書き授業などを通じた「普及啓発事業」。「地域づくり事業」としては「森林総合利用推進事業」（林野庁補助事業）を実施いたしました。行政や企業、学校等との協働により、活動の広がりが増してまいりました。この間の皆様の御支援、御協力に対し、厚く御礼申し上げますとともに、ここに2010年度の活動概要をご報告いたします。

当NPOの活動の中心である「森の聞き書き甲子園」は9回目の開催となりました。今年度は日本財団の助成を得て「海・川の聞き書き甲子園」を同時開催し、「森の名手・名人」を聞き書きする高校生80名、「海・川の名人」を聞き書きする高校生20名で実施いたしました。

ドキュメンタリー映画「森聞き」（もりきき）は、2011年3月から東京を皮切りに上映が始まりました。当NPOは、映画の広報活動や上映館のディスプレイなどの企画・展示、各回の上映後に行われたトークショーへの出演などを通じて、上映活動への協力を行ってまいりました。

「森の聞き書き甲子園」卒業生有志から始まった「共存の森」の活動は、前年度に引き続き5地区の農山村地域で活動を行いました。「聞き書き」や「地元学」の手法を活用し、地域住民や地元のNPO、大学、企業、行政等との連携により、活動を実施してまいりました。また、今年度は、中・四国地区の活動についても卒業生有志等と共に、漁村を拠点とした活動の展開について話し合いを行いました。

「普及啓発事業」では、農山村へのIターンや半農半Xなどの生き方を志向する若者たちを対象に、自ら「なりわい」を創造できる人材の育成を目指した「なりわい創造塾」を開講し、20代～30代の若者23名が受講しました。また、筑波大学附属坂戸高等学校では、「地域に根付く、自然を利用した暮らし」をテーマにした「聞き書き」の授業を実施。自然再生を推進する市民団体連絡会との協働事業では、森里川海其自然再生の取り組みを映像で記録するとともに、「第10回生物多様性条約締約国会議に向けた森里川海其自然再生提言の策定」等を行いました。

「地域づくり事業」としては、「森林総合利用推進事業」（林野庁補助事業）を受託しました。本年度は山形県飯豊町、群馬県川場村、石川県能登町の3地区を実践地域として選定し、里山林の新たな価値を見だし、地域が自立的・継続的に里山整備とその利活用に取り組むための指針の策定、マニュアル案の作成、人材育成、情報発信等を行いました。

広報活動では、年3回の会報誌の発行やメールマガジンの配信等、当NPOの取り組みの発信に努めました。

会員数は、「森の聞き書き甲子園」の卒業生を中心にユース会員が増え、2011年4月末の時点で、正会員が83名、賛助会員が23名となりました。

## I 組織

### 1. 会員（2011年5月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員	特別会員
正会員	42 (38)	45 (45)		
賛助会員	10人11口 (10人11口)		3社7口 (3社7口)	10人23口 (10人23口)

※ ユース会員……満23歳未満で正会員となる方

※ 特別会員………社団法人国土緑化推進機構が選定する「森の名手・名人」に選ばれた方  
ないし満23歳未満で賛助会員となる方。

※ ( ) 内の数字は、2011年4月30日時点での会員数です。

### 2. 役員（敬称略）

体制表

役職	氏名	所属
理事長	塩野 米松	作家・「聞き書き甲子園」講師
副理事長	澁澤 寿一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
理事・事務局長	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	結城 登美雄	民俗研究者・フリーライター
理事	竹田 純一	農山村支援センター事務局長
理事	浜田 久美子	作家
理事	久田 浩司	結デザインネットワーク代表取締役
理事	代田 七瀬	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス研究所上席所員（訪問）
理事	前川 洋平	東京農業大学学術研究員
理事	宮本 芳樹	株式会社ファミリーマート専務取締役 管理本部長
理事	木村 璃香	聖心女子大学4年
理事	鈴木 まり子	名古屋大学4年
理事	多胡 潤哉	龍谷大学大学院修士課程2年
監事	永野 巖	エー・アイ・コンサルティング代表取締役
監事	牛田 貴規	株式会社帝国データバンク勤務

## II 事業

### 1. 「森の聞き書き甲子園」事業

#### ① 第9回「森の聞き書き甲子園」の開催

「森の聞き書き甲子園」は、全国から選ばれた高校生が、森林に関わる様々な分野で活躍する「森の名手・名人」を訪ね、一対一の対話を通して、その知恵や技術、ものの考え方や生きざまを「聞き書き」し、記録する活動です。林野庁、文部科学省、社団法人国土緑化推進機構と当 NPO の4者による実行委員会が主催し、株式会社ファミリーマートをはじめ複数の企業、団体からの御協賛、御協力を得て実施しました。

2010年度は後述する「海・川の聞き書き甲子園」と合わせて165名の応募があり、そのうち100名の高校生に参加いただきました。

夏の研修では、新たに協賛企業として加わった佐川急便株式会社の社有林を活用し、「森の名手・名人」の技や、森と暮らしのつながりについて学ぶプログラムを協働で実施しました。また、富士フィルムホールディングス株式会社が提供するウェブ上の写真共有システム「fotonoma」の活用により、高校生が取材時に撮影した写真を参加者間で共有し、アルバムを作成しました。

3月28日に予定していたフォーラムは、東日本大震災の発生により、参加者の安全を考慮して中止としました。

#### ② 第1回「海・川の聞き書き甲子園」の開催

「海・川の聞き書き甲子園」は社団法人全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協働組合連合会、自然再生を推進する市民団体連絡会の3者による実行委員会が主催し、水産庁及び環境省の後援、日本財団の助成を受けて実施しました。

8月には「海・川の名人選定委員会」を立ち上げ、全国から推薦された46名の候補者の中から、20名の「海・川の名人」を選定しました。参加高校生は「森の聞き書き甲子園」の参加者と共に研修に参加し、名人の「聞き書き」を行いました。

#### ③ 「海の森づくり」との連携事業

フォーラムの中止に伴い実施を取りやめました。

#### ④ FOXFIRE 倶楽部の開催

FOXFIRE 倶楽部は、「聞き書き甲子園」の運営に関わる行政や NPO、企業、団体等が集まり、当活動の展望について話し合う会です。

昨年度は6月3日、10月8日、3月1日に行い、「聞き書き甲子園」の10周年に向けた取り組み等について話し合いました。

#### ⑤ 「聞き書き作品」の電子図書館化

「聞き書き電子図書館」は、ウェブ上で聞き書き作品を検索・閲覧できるシステムです。昨年の11月に第8回の聞き書き作品をアップし、現在805作品を収録しています。

電子図書館の運営は、社団法人農山漁村文化協会と協働で行っています。

#### ⑥ 映画「森聞き」への協力

プロダクション・エイシア（監督：柴田昌平氏）の製作による、映画「森聞き」（※）の上映が3月の東京公開を皮切りに日本各地で行われました。

## 《映画館》

3月5日～4月1日 東京・ポレポレ東中野

3月26日～4月15日 鹿児島・ガーデンズシネマ

4月23日～5月6日 アンコール上映 東京・ポレポレ東中野

## 《自主上映会》

4月21日 岡山県立矢掛高等学校（矢掛文化センター）

当 NPO は、映画公開に向けてのパンフレット制作、試写会の実施、チラシ等の配布による広報活動、東京での公開期間中に行われたトークイベントへの出演等で協力しました。

また、同作品を1時間に再編集したテレビ番組が、アジアの優れたドキュメンタリー作品のひとつとして、NHK・BS放送「発掘アジアドキュメンタリー」で放映されました。

※「森の名手・名人」とその「聞き書き」をした高校生4組を主人公とした長編ドキュメンタリー映画。125分。  
（文部科学省選定／日本映画ペンクラブ文化映画部門 第3位／平成23年児童福祉文化賞受賞）

## 2. 「森づくり」事業

### ① 「共存の森」各地区の活動

「共存の森」各地区では、聞き書きの卒業生や大学生を中心とした若者たちが農山村の暮らしを学び、地域の未来に向けた活動を行っています。2010年度は、東北、関東、関西、北陸、東海の5地区を拠点に活動を実施しました。また、中・四国地区において、漁村での活動の立ち上げについて話し合いを行いました。

本年度の活動は、社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」・「創造的公募事業」助成金、トヨタ自動車株式会社の「トヨタ環境活動助成プログラム」助成金、NPO法人りすシステムとキャノンマーケティングジャパン株式会社からの寄付金により実施しました。

#### <各地区の活動概要>

東北地区：山形県飯豊町の広河原集落を拠点に「生きるための森づくり」をテーマに活動を行いました。同集落の高橋政義さん、竹子さんご夫妻、高橋君子さんへの「聞き書き」を行い、冊子にまとめました。

関東地区：「鶴舞創造の森」と近隣の山小川集落を拠点に「五感で探る山小川の全貌」をテーマに活動を行いました。「地元学」の実践と田畑や山林の所有や利用状況の「聞き取り」を行うとともに、「鶴舞創造の森」（千葉県と里山活動協定を結んでいる県有林）では、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会のグリーンセイバーの方や山小川集落の皆さんの協力により、里山整備活動を実施しました。

関西地区：滋賀県大津市堂町にて、地域の方と協働で休耕田を活用したソバづくりを実践し、近隣の小学生に食の大切さを伝える授業を行いました。奈良県川上村高原地区では、「地元学」を行い、世帯ごとの居住人数と年齢の分布を調べるとともに、秋の大祭への参加を通じて、地域の暮らしや文化を学びました。

北陸地区：新潟県村上市の高根集落にて『食』から知ろう高根の暮らしをテーマに活動を行いました。高根フロンティアクラブをはじめとする地域の方々の協力を得て、キャノンマーケティングジャパン（以下、キャノン MJ）グループとの協働で棚田での米づくりを行いました。あわせて、ブナの植樹地の草刈りや廃校となった小学校の教室整備を行った他、高根の食文化を伝えるための「食の図鑑づくり」、同地区の夏祭りへの参加を行いました。

東海地区:愛知県豊田市の椿立自治区にて、「椿立の暮らしを知る」をテーマに活動を行いました。  
地域の皆さんが整備・復活させた休耕田の田植えや草取り、稲刈りなどを手伝うとともに、8月には国の指定重要無形民俗文化財となっている「夜念仏」に参加。地域の方との交流を深めました。10月には「共存の森・全国セミナー」を開催。全国で活動を行っているメンバーが同地区に集まり、地域のお年寄りから「里山の風景」「食文化」「祀りと神様」をテーマに、人の暮らしと自然との循環をテーマに話を聞きました。また、3月には当自治区の総会にて1年間の活動報告を行いました。

《活動回数と参加者》

東北地区 3回 延べ7人（1回あたり平均2.3人）  
関東地区 4回、延べ38人（1回あたり9.5人）  
関西地区 11回、延べ61人（1回あたり平均6.8人）  
北陸地区 6回、延べ83人（1回あたり平均13.8人）  
東海地区 10回、延べ88人（1回あたり平均8.8人）  
共存の森・全国セミナー 38人

※活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

※参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

② 「地域づくり」とともにある「森づくり」のモデル構築

「聞き書き」や「地元学」の手法を活かした「共存の森」の活動をモデルとし、その手法や経験を、他団体や教育機関等に普及する取組や人材育成を行いました。当事業で製作した「聞く！から始める森づくり」の冊子は、大学の授業等でも活用いただきました。

また、当NPOのラベルを貼った「緑の羽根」の募金箱を他団体が主催するイベント等に設置し、協力を呼び掛けました。

③ キヤノンマーケティングジャパン株式会社との協働活動

キヤノンマーケティングジャパン株式会社の社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、「共存の森」の北陸地区及び東北地区において、キヤノンMJグループと関連会社の社員やご家族の方々と共に活動を実施しました。

北陸地区では、「棚田のふるさとづくり」をテーマに、米づくりを体験しながら、高根集落の暮らしを学ぶプログラムを実施しました。

東北地区では、ナラ枯れの被害が広がる同地区の里山保全と循環的な里山利用のために、地域住民の皆さんや美しいやまがた森林活動支援センター、飯豊町、山形県等の協力により、植樹活動や草刈り等を実施しました。

《活動回数と参加者》

北陸地区：5回 延べ121人（1回あたりの平均24.2人）  
東北地区：3回 延べ107人（1回あたりの平均35.6人）

※活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

※参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

### 3. 普及啓発事業

#### ① なりわい創造塾の開講

農山村へのIターンや半農半Xなどの生き方を志向する23人の若者たちを対象に「なりわい創造塾」を開講しました。2010年7月から2011年3月まで毎月1回、講師を招いての座学やワークショップを行いました。7、8、3月の講座では群馬県川場村にて「地元学」や「聞き書き」を実施しました。また、11、12、1月は損保ジャパン環境財団の御協力により、公開講座を行いました。

#### ② 「聞き書き」の出張講義や授業

筑波大学附属坂戸高等学校では、昨年度に引き続き、26名の2年生を対象とした「環境創造」科目で「地域に根付く、自然を利用した暮らし」をテーマに、聞き書きの卒業生や当NPO職員が講師となり、「聞き書き」の手法を活用した授業を行いました。

また、京都市の紫野カルチャー亭運営協議会及び豊田市役所足助支所からの委託で、市民のための「聞き書き」講座を実施しました。

#### ③ 森里川海の自然再生の映像記録及び政策提言の策定

自然再生を推進する市民団体連絡会との協働により、「地球環境基金」から助成を受け、「第10回生物多様性条約締約国会議に向けた自然再生の提言の策定」の一環として山形県飯豊町、愛知県豊田市、京都府亀岡市、鹿児島県始良郡の4箇所を森・里・川・海の各分野での自然再生の取組を映像で記録し、ウェブ上で公開しました。また、森里川海の自然再生をテーマとして行った東京農業大学での連続講義をもとに報告書を作成しました。

※自然再生を推進する市民団体連絡会……森・里・川・海の自然再生に取り組む4団体（NPO法人海辺づくり研究会／NPO法人全国水環境交流会／里地ネットワーク／NPO法人共存の森ネットワーク）で構成。

### 4. 地域づくり事業

林野庁補助事業「森林総合利用推進事業」を当NPOで受託し、実施しました。

本事業は、里山林の整備と資源の利活用に有効な里山林再生のマニュアル作成し、人材育成や情報発信等を行うもので、里山林の新たな利用価値を見いだすことで、地域の自立的・継続的な取組への転換を図ります。2010年度は、山形県飯豊町、石川県能登町、群馬県川場村を実践地域として選定し、地域ごとの里山林整備指針の策定や人材育成を行いました。

### 5. その他

#### ① インターン生の受入

財団法人損保ジャパン環境財団のCSOラーニング制度を通じて、2010年6月から2011年1月まで、筑波大学4年生の山門弘直さんをインターン生として受入れ、会報誌の作成等の広報活動や「共存の森」の各地区の活動のサポートを行っていただきました。

また、NPOサポートセンターのグラウンドワーク・インターンシップ事業を通じて、2名が短期の職場体験を受けた後、山崎雄哉さんが10月から1月にかけてインターンシップを行い、映画や各種イベントのウェブ上での広報活動を中心にサポートいただきました。



## ② ひこばえ会

ひこばえ会は当 NPO の活動に関わる学生や 20 代の社会人を中心に「共存の森」の各地区の活動等の情報交換や意見交換を行う会です。昨年度は映画『森聞き』の上映活動への協力を行ったほか、「森の聞き書き甲子園」10 周年に向けて有志を募り、記念イベント等の企画立案を行いました。

## ③ 広報活動

当団体のウェブサイトを更新した他、blog、メールマガジンにて広報活動を行いました。また、他団体が主催するイベント等への出展も行いました。

### (1) 出展イベント

12 月 13 日：生物多様性入門セミナー「いのちのつながり よくわかる生物多様性」

(主催：経団連自然保護協議会)

12 月 16 日：第 4 回「シンポジウム&NPO・社会起業 見本市 (メッセ)」

(主催：公益社団法人経済同友会)

12 月 9 日-11 日：エコプロダクツ 2010

(主催：社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)

### (2) 新聞・雑誌等への掲載

(「森の聞き書き甲子園」関連) 19 件

(共存の森づくり) 43 件

(映画『森聞き』関連) 27 件

## ④ 事務局スタッフの新規採用等

中野葉月の退職に伴い、2 月から磯野晶子、4 月から若尾健太郎の 2 名を、新たに事務局スタッフに採用しました。

また、日本財団の職員である田代純一の出向期間満了に伴い、新たに日本財団から芳川龍郎が当 NPO に 4 月より出向し、事務局スタッフの一員に加わることとなりました。

2010 年度決算書

1. 2010 年度収支計算書

書式第12号(法第28条関係)

平成22年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書			
平成22年 5月 1日から平成23年 4月30日まで			
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク			
(単位:円)			
科 目	金 額		
<b>(経常収支の部)</b>			
<b>I 経常収入の部</b>			
1 会費収入		717,000	
2 事業収入			
普及啓発事業収入		455,029	
3 参加費収入		1,682,026	
4 補助金収入		49,298,400	
5 助成金収入		17,932,909	
6 協賛金収入		15,528,544	
7 寄付金収入		8,036,604	
8 雑収入		1,311,333	
経常収入合計			94,961,845
<b>II 経常支出の部</b>			
1 事業費			
青少年教育事業費	18,004,327		
普及啓発事業費	6,639,623		
森づくり事業費	11,410,323		
地域づくり事業費	49,465,537	85,519,810	
2 管理費			
給料手当	1,352,000		
法定福利費	118,916		
福利厚生費	81,249		
求人広告料	168,000		
印刷費	612,316		
支払手数料	231,615		
制作費	454,434		
施設借上費	6,200		
リース料	76,577		
水道光熱費	2,789		
事務用品費	271,392		
消耗品費	293,921		
地代家賃	3,150,000		
保険料	12,000		
修繕費	321,000		
租税公課	126,900		
旅費交通費	331,339		
通信費	457,161		
参加費	3,000		
会議費	63,783		
委託費	404,365		
雑費	8,080	8,547,037	
経常支出合計			94,066,847
経常収支差額			894,998
<b>III その他資金収入の部</b>			
<b>IV その他資金支出の部</b>			
当期収支差額			894,998
前期繰越収支差額			5,235,870
次期繰越収支差額			6,130,868
<b>(正味財産増減の部)</b>			
<b>V 正味財産増加の部</b>			
1 資産増加額			
当期収支差額	894,998		
2 負債減少額	-		
増加額計			894,998
<b>VI 正味財産減少の部</b>			
1 資産減少額	-		
2 負債増加額	-		
減少額計			-
当期正味財産増加額			894,998
前期繰越正味財産額			5,789,861
次期正味財産合計			6,684,859

(注記)

1. 資金の範囲は、現金預金、未収入金、前払費用、未払金、前受金、預り金を含んでいる。

## 2. 2010年度事業会計財産目録

書式第10号(規則第11条関係)

### 平成22年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成23年 4月30日現在

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金		
現金	157,457	
三菱東京UFJ銀行本店	151,372	
三菱東京UFJ銀行本店	13,091,347	
三井住友銀行世田谷支店	2,575,373	
ゆうちょ銀行〇一九支店	149,370	
未収入金		
(社)国土緑化推進機構	17,139,847	
自然再生を推進する市民団体連絡会	457,407	
三菱UFJファクター(株)	294,040	
ポレポレ東中野	181,104	
キャンマーケティングジャパン(株)	122,350	
その他	157,500	
前払費用		
青少年教育事業費	73,920	
普及啓発事業費	38,730	
森づくり事業費	357,213	
流動資産合計		34,947,030
2 固定資産	-	
固定資産合計		-
資産合計		34,947,030
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
未払金		
(社)国土緑化推進機構	6,144,000	
従業員給料	869,689	
日本財団	485,000	
社会保険料	379,886	
その他	633,989	
前受金		
日本財団	6,000,000	
(社)国土緑化推進機構	5,000,000	
キャンマーケティングジャパン(株)	4,500,000	
トヨタ自動車(株)	2,000,000	
(一財)セブンイレブン記念財団	1,842,080	
その他	145,320	
預り金		
源泉所得税	262,207	
流動負債合計		28,262,171
2 固定負債	-	
固定負債合計		-
負債合計		28,262,171
正味財産		6,684,859

### 3. 2010年度決算についての監査報告書

#### 監 査 報 告 書


特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2010年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2011年 6月 9日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 永野 巖 

永野 巖

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2010年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2011年6月13日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 牛田貴規 

牛 田 貴 規